



アートな麻布に魅せられて ①



五十嵐氏は、穏やかにゆっくりと話しをして下さり、とても気持ちよくインタビューできました。活動範囲は広く、故郷の北海道滝川市では五十嵐氏が考案した「紙袋ランタンフェスティバル」が毎年2月開催されています(今年で11回目)。紙袋で作ったランタンというアートが、人と人をつなぐ役割を果たし、「日常生活の中にアートを取り込みたい、アートを通じて外から人が来てくれるような街づくりをしたい」という五十嵐氏の思いが実りつつあります。開催当初の1,500個から、今では14,000個余となり参加者数も増え続けています。

五十嵐威暢氏は、2010年から多摩美術大学学長に就任されています

空中にふわり「KUMO」と大地にどっしり「NUNO」

麻布十番商店街のコンセプトは「ほほえみの街」「住みつづけたい街」です。大使館の多い街、という特徴を活かし、12カ国から協力を得て「ほほえみ」をテーマに、バラエティに富んだパブリックアートが登場したのが1996年。さらに、コンペで選ばれたデザイナーであり、彫刻家でもある五十嵐威暢(いがらしたけのぶ)氏が日本を代表して「KUMO」と「NUNO」を制作しました。17年を経て、五十嵐氏にお話を伺いました。

●2つの作品のテーマを教えてくださいませんか？

空に浮かぶ雲が、ゆったりと風を受けながら～というイメージである「KUMO」は、かねてからデザイン構想があり、少し作り始めていたところでした。コンペで選ばれてから、実物化させるため、模型作りに3ヵ月をかけ、工場での拡大作業は2ヵ月かかりました。

「NUNO」のほうは麻布を流れる古川に、昔は船着場があったと聞いていたので、そこからヒントを得て、ウェーブを効かせたデザインで波を表現しました。麻布という地名の由来が、麻を作っていたからという一説もあり、布を意識した彫刻にしようと思いました。また、見た方に直接触れてもらえる作品にするため石を滑らかに加工しました。

●製作するにあたり、ご苦労はありましたか？

「KUMO」は、作品の設置が人々の頭上に位置する高さになるため、雨天時に錆の混じった滴が落ちてはいけなと、注意を払いました。そのためメッシュ状の特殊な塗料を使用して仕上げています。「NUNO」は大理石ですが、やはり長年、雨風にさらされると劣化しますから、質感の落ちない素材選びをしたつもりです。

●17年経って、改めて作品を見ることはありますか？

こちらに来る時は、遠回りしてでも必ず見に来ます。製作当時は六本木ヒルズ(2003年竣工)も建設されていませんでした。作品周囲の環境もずい分と変わりましたね。六本木ヒルズゲートタワー前の「KUMO」は、作品脇の檜の木も高くなっています。南山小学校坂下に展示している「NUNO」の後方の階段なども、きれいに整備され、皆様の目に触れる機会が増えたようで、嬉しく思っています。

●五十嵐氏にとってパブリックアートに対するお考えをお聞かせいただけますか？

パブリックアートは年々各地に増えていて、とても喜ばしいことだと思います。ただ、かつて暮らしていたアメリカのロサンゼルスでは、公共建築費の1%は、パブリックアートに使わなければならないと、法律で定められています。アートは景観の一部であるという考えのもと、定期的に作品のメンテナンス作業も行われています。日本も作らせっぱなしではなく、行政でもメンテナンスを積極的に取り組んで頂きたいです。

●最後に五十嵐氏が思われる、これからのアートについてお話しいただけますか？

アートとは何かを定義しようとするのは非常に難しいですね。新たに挑戦することも常識を壊すこともアートの良さであり、そこから生まれる作品には上手も下手も関係ありません。見る者に感動を与えることができ、アーティストにとっては作品を完成することが希望にもなります。これからも、特にパブリックアートを通じて、外から人が来てくれるような街づくりに、私自身も関わっていければと思っています。

(取材/山口幸子、永浜和美、高柳由紀子 文/永浜和美、高柳由紀子)



1、2、3はクレーンを使って設置している様子。撮影:目羅 勝(Masaru Mera)



麻布びと

未来へ残したい麻布の声



すぎした やすひさ
杉下泰久さん



「幕末から維新へ」未だ江戸の気配が残る赤坂新町。5歳で母に死なれ、10歳で三河屋油店へ奉公に入る富吉を囲み面倒をみるおかみさんたち。その後、19歳で西麻布(旧霞町)に金物細工問屋の店を構える。三世代に語り継ぐ「勝海舟」との思い出とは?今も同じ場所で店を守り続ける杉下泰久さんにお話を伺った。(以下敬称略)

江戸から続く三世代知られざる麻布回想録

「勝海舟」との秘話を伝えた祖父「富吉」さん

それは今から116年前のこと、明治維新後の赤坂百軒長屋にて、数人のおかみさんたちが5歳で母に死なれ、10歳で油屋へ奉公にでる男の子の世話を皆で焼いていた。

「あんたがんばるんだよ」、「辛抱すれば、いつか店も持てるさ」と集まるところへ、散歩帰りの御仁。「どうしたんだい、みな集まって騒がしいじゃねいか。」「これは、かつあま(勝様) いやね、この子が今度油屋へ奉公にあがりますので、皆で世話を焼いております」、おかみさんたちからこの次第を聞いたその人は、背丈に合わせてかがみ込み、富吉にこう言った。「坊や、奉公ていのはな辛え事もある。でもその折は、辛抱おし。」そう語るの、明治維新をかなえた立役者の「勝海舟」。

祖父から何度も聞かされていたと、あの時代であればきっとこんなやりとりだったはずと語るの、三代続く家の杉下泰久さん(昭和24年生まれ)。

祖父は富吉(明治19年生まれ)、父は潤(大正4年生まれ)、あの「勝麟太郎義邦」から励まされた富吉は、その言葉通りに辛抱し、見事19歳で店をもった。今は亡き祖父は、そのことを息子や孫に話ながら家族と店を支えてきたのだ。赤坂で修行した後、日露戦争後の明治38年に現在の麻布の地に移る。



祖父=杉下富吉氏:油屋姿の写真
祖母=田中トメさん:お見合い写真と思われる



昭和28年頃、店頭にて杉下泰久さん



昭和30年代のチラシ



右:青山の奉公当時の写真。
左:現在の場所西麻布(旧霞町)に杉下商店を開業。



戦後の麻布は軍隊の街

泰久さんは江戸検定で準1級をもつ江戸の達人である。その記憶力たるや、誰よりも麻布を語る「麻布の達人」でもあろうと、かつての麻布についていろいろ語っていただいた。

今では最先端のお洒落なまち、アートなまちとして知られている六本木や麻布。杉下さんは言う、「麻布が軍隊のまちだったことを、今では誰も言わないんだよなあ。」現在の東京ミッドタウンが、元防衛庁の跡地であったことさえ、知らない人が増えている。



東京ミッドタウン前の外苑東通り

写真提供:加藤 薫子
協力:港区私と町の物語(クリエイティブ・アート実行委員会)

「うちは商家だから表通り、その裏が第28代連合艦隊の司令長官の古賀峯一さんのお宅。表と裏は繋がっていて、井戸で洗濯している母に古賀さんの奥さまが「おはようございます」とあいさつし、夕方帰ってくるとまだ洗濯をする母を見て、「あんた大変なところへ嫁に来たわねえ」と声をかけてくれたそうです。」古賀峯一さんといえば、連合艦隊の司令長官山本五十六氏とも親交が深く、対米戦反対派であったとか…。周辺には、歩兵第一連隊(現在の東京ミッドタウン)があり、昭和天皇の弟:秩父宮さまが中隊長をしていた歩兵第三連隊(現在の国立新美術館)があり、軍人と庶民が一緒に日々暮らしていた。

連隊の近い町、六本木が栄えたのは2年で除隊する軍人のお土産屋、杯と扇とか吉祥をいっぱい売っていた町。お土産を買って軍人さんが帰っていった。

戦前、70年程前の軍人のまち六本木を伝える人はあまりいない。

風景の変わる麻布に、語り継ぎたい物語

杉下さんの話は実に愉快だ!いろいろな麻布の話がつぎからつぎへ、当時の麻布の暮らしをいきいきと語る。

「私のじいさんはね、あれ知っているかな?「竹のピンチ」、「いたどり」ってさ。あれ2つとも実用新案特許を考えた人なの。」洗濯バサミとねずみ取りのことである。「それとね、知っている?エノケンって人。あの人は私のばあさんの従兄弟でね。あそびにやってくるとね、娘たちに見るんじゃないよ、見るんじゃないよ。不良だからねって…。」いやいやエノケンといえば、昭和の喜劇王として紫綬褒章を受賞した方。麻布十番で生まれて、長谷寺に眠る麻布の著名人である。まだまだ話はつきない、「麻布盛岡町(現南麻布)には昔妖怪が出たって知っているかい?一反木綿とか、いろいろさあ。」※江戸三大妖怪名所

「私には兄が一人おります。兄は平成15年3月に退官しましたが、東大の理Ⅲの教授でした。」タイムスリップして、勝海舟と10歳のうちのじいさんが今会っていたならば、きっとこう付け加えてくれたんじゃないかなあ「それがご維新になったてえことだい」。

杉下家に語り継がれる富吉お祖父さんと勝海舟との交流を知る人はほとんどいない。勝海舟はその一年半後に亡くなり、富吉さんはその思い出を85歳で亡くなるまで度々話していたそうだ。口承でなければ伝えられない知られざる麻布回想録として、「麻布びと」に記しておきたい。



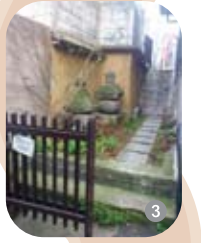
持っている写真は西麻布交差点 現「権八」の前。



六本木から広尾まで一本道で歩く

Start

地下鉄に乗れば3分程の六本木-広尾間。大通りを行くと、六本木通りを西に向い、西麻布の交差点で一度大きく南に曲がって外苑西通りを進むだけです。今回の麻布さんぽ、その王道に頼らず、大小様々な道をできるだけ真っ直ぐ道なりに歩いて、広尾を目指してみました。



Goal

スタート地点は、六本木3丁目市三坂(六本木通り)中腹の高層ビルTHE ROPPONGI TOKYO①。1階のスーパーマーケットもとまちユニオンの脇に入り、ビルの後ろまで来ると、目の前に自転車と一人一人がなんとか通れる細さの坂道②が。右手はお墓、左手の不思議な抜け道③に心惹かれるも、しかし今回は“真っ直ぐ”がモットー、坂を上って前方の六本木5丁目交差点に進みます。直進すると、左手に麻布地区総合支所、東洋英和女学院中学部・高等部・大学院④、右手は東洋英和幼稚園・小学部、鳥居坂教会⑤、国際文化会館⑥と厳かな建物が並びます。鳥居坂下り口のシンガポール大使館まで来ると、遠方に八角形の高層ビルが覗き見えます。坂を下って大通りを渡り、麻布十番商店街を横断。⑦暗闇坂の上り口から城砦のようなオーストリア大使館の建物に沿ってぐるりと進みます。坂を上り詰めると、麻布七不思議のひとつ一本松⑧が元麻布ヒルズのタワーを背にすくりに立っています。なだらかな一本松坂には、西町インターナショナルスクール、氷川神社⑨、アルゼン

チン大使館、安藤記念教会⑩と目を奪われる建物が軒並みです。仙台坂上の六差路⑪まで来たら、一度だけ“真っ直ぐ”の掟を破って右から二本目の小路へ。臨済宗の名刹天真寺⑫の脇を行くと麻布運動場に突き当たるので、やむを得ず左手に下ります。有栖川宮記念公園に沿って、ありすの杜⑬、ドイツ大使館、南部坂教会⑭へと(南部)坂を下り、スーパー(ナショナル麻布)前まで来ればゴールの広尾はもう目の前。

大通りを避け、フォトジェニックなお宝いっぱい的一本道で広尾まで歩いた今回のコース、皆さんもカメラをお供にお出かけ下さい。



(取材・文/出石供子)



パティシエ
プロッソー瑞香さん

世の中にはいろいろな仕事があります
パティシエ

子どもに生きていく力を

KIDS! ハローワーク

親子で
読んでみよう

お客さまの「幸せ」の場に「ケーキ」がある喜び

今回のテーマはパティシエ(洋菓子職人)のお仕事です。港区立高陵中学校1年生3名が、洋菓子店ラ・プレジューズ(南麻布)で働くプロッソー瑞香さんにお話をうかがいました。

◎パティシエになったきっかけは何ですか?

幼い頃からお菓子づくりは好きでした。でもその頃はパティシエになりたいとはまだ思っていないでして。何となく大学まで進み、海外体験を積んでいくうちに、「まわりとっしょ」ということに安心している自分に気づいてその殻を破りたくなりました。その頃から夜間の教室に通いお菓子について学び始め、これは自分に合っている、仕事にしたい、と考えました。

◎どうしたらパティシエになれますか?

いちばん大事なのは気持ちです。体力もいりますけどね。私は製菓学校を出ていませんが、やりぬく気持ち、向上心があれば誰でもなれるのではないかと思います。

◎どのようにして1日を過ごしていますか?

朝は6時半頃から前日に仕込んであった焼き菓子やケーキなどの仕上げをお店が開く10時頃までに済ませます。途中、売上に応じて足りなくなりそうなケーキの仕込みなどもして夕方まで販売します。最後に片付け担当の人が終わるのは8時頃になります。1日に1種類あたり100~150個くらい仕込みます。季節的にはイベントの続く冬場が特に忙しいです。

◎季節ごとに商品はどのように変わりますか?

季節を代表する食材、特にフルーツを選びます。自分やまわりの方が食べてみたいと思うような商品に仕上げます。ショーケース全体の色合いのバランスも見決めていきます。

◎お仕事をされていて嬉しいことは何ですか?

ケーキを食べるのは、嬉しいことがあった時や癒されたい時、お祝い事の時などですね。



お客さまの幸せなお祝いの場所に自分の作ったものがあるのは嬉しいことです。パースデーケーキが美味しかったと言って次の年も頼んでくださる時など、特に喜びを感じます。

◎失敗した時はどうするのですか?

焦げて食べられない時は、反省してから捨てます。お腹が空いていて食べてしまう時もあります(苦笑)。

◎接客する上で気をつけていることはありますか?

なるべくお客さまを見るように心がけ、何かできないことがないかを考えます。お支払と品物をお渡しするタイミングを見計らったり、重いお荷物があったら出口までお持ちしたりします。あと、常に笑顔で心がけています。



インタビュー後、お菓子作りを体験。計量、混ぜる、型に投入、そして初めて自分たちの手作りお菓子が業務用のオープンで焼きあがる...感動とテキパキとしたご指導をありがとうございました。

(取材・文/稲葉ヴィヴィアン雅、吉松己葉、大村響 取材サポート/大村公美子)



パティシエ修行の一環としてパリのレストランで働いていた頃の映像も見せていただきました。



スイスの首都、ベルンはチューリッヒ、ジュネーブ、バーゼル、ローザンヌに次ぐ、スイス第5の人口を誇る。13世紀の街並が残る旧市街は世界遺産。(写真提供:スイス政府観光局)



酪農王国スイスはチーズの種類も実に豊富だ。代表的な料理、チーズフォンデュに使うエメンタール、グリュイエールなどは世界中に輸出されている。(写真提供:スイス政府観光局) Swiss-image.ch/Andy Mattler



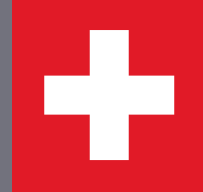
スイス連邦
 面積： 4.1万平方キロメートル(九州本島よりやや大きい)
 人口： 787万人(2010年、スイス連邦統計庁)
 首都： ベルン(人口約12万人)(2010年、スイス連邦統計庁)
 民族： 主としてゲルマン民族(外国人約20%)
 言語： 独語(64%)、仏語(20%)、伊語(6%)、レート・ロマンシュ語(1%)
 宗教： カトリック約41%、プロテスタント約35%
 政体： 連邦共和制(26の州(カントン)により構成される)
 元首： ウーリ・マウラー大統領兼国防・市民防衛・スポーツ大臣(国民党)(2013年1月就任、任期1年)
 議会： 2院制(上院(全州議会)46議席、下院(国民議会)200議席)



外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/switzerland/data.html>より

ウルス・ブーヘル(Urs BUCHER)駐日スイス特命全権大使
 取材協力/スイス大使館

大使を訪ねて 22 麻布の"世界"から



Switzerland

小さな国をいつまでも美しく、住みやすい国でいく努力を、
 国全体で取り組んでいる



スイスには大小合わせて1500もの湖がある。大使おすすめのスポット、ラウエネン湖はベルン南部、グシュタードよりバスで30分ほど。(写真提供:スイス政府観光局) Switzerland Tourism By-Line: swiss-image.ch/Christof Sonderegger



スイス領事リンドウは、フランス、オランダの公館近辺での滞在を希望する旨を書簡で送り、幕府はそれを受け入れ、1864年、高輪の正泉寺(大正2年、目黒区に移転)を宿所に定めた。領事館は横浜であった。同年、日瑞修好通商条約が締結される。その後、数カ所移転の後、1945年当時貴族議員の、近藤滋弥男爵の邸宅と賃貸契約を結び、当初は職員住宅として使用した。1963年に近藤家と賃貸契約を交し、スイス連邦政府の所有となる。現在の建物は、1978年に完成した。写真提供:「ふるさと村」生命の森リゾート 日本エアロピクスセンター

アルプスの雄大な眺めや美しい景観の街並みで、世界中の観光客を魅了するスイス。日本の九州ほどの国土、その6割が山岳地帯のスイスは私たち日本人にも、とてもなじみの深い国です。来年の2014年、日本との国交150年を迎えます。有栖川宮記念公園に沿って、木下坂を進んだ中腹、閑静な住宅街に立つ大使公邸にて、ウルス・ブーヘル(Urs BUCHER)駐日スイス特命全権大使にお話を伺いました。

1977年まで使用していた建物は、現在も千葉県に

ブーヘル氏はベルン大学卒業、ベルン州弁護士資格を取得され、外務省に入省。ベルギー、ブリュッセルにてスイス政府EU代表部 審議官、報道官などを歴任され、2010年より、駐日スイス特命全権大使を務めていらっしゃる。初めてのアジア、日本の生活は期待以上のもので、満足のご様子。

大使公邸は大使館に隣接しており、有栖川宮記念公園は目と鼻の先。ご家族で、公園の散策はもちろん、都内近郊をサイクリングで楽しむことも。レインボーブリッジは、往復歩かれたそう。「私の故郷は山々が連なっているので、高い所が好きなんです。六本木ヒルズの森タワー展望台にはよく行きますよ」とおっしゃる。趣味のスキーをすぐに楽しめないのは、少し残念とのこと。

また、全国各地へ足を伸ばし、日本をエンジョイしておられる。お気に入りの旅行先を伺うと「京都です」と即座にお応えが。毎回出かけても、新しい文化、歴史の発見があり、素晴らしい。そして、香川県直島の「ベネッセアートサイト直島」は、是非皆さんも行っていただきたい、と推薦の言葉をいただく。安藤忠雄氏が設計した、瀬戸内海の美しい景観を損ねないよう、建物全体を地中に埋めた『地中美術館』は特に、と力説された。

「もうひとつ是非訪ねて頂きたいのが、千葉県長柄の『ふるさと村』です。この麻布に当初立っていたスイス大使館の前身、近藤男爵の邸宅を寄贈しました。移築先では、レストランとして使用しています。スイス料理ではありませんがね」と、にっこり。

ところで、日本食で好きなものは? 「京都で頂いた懐石料理は盛り付け、味にも感動しました」「刺身、天婦羅、寿司など大好物です」ただし、最近あん肝を食したけど、これと納豆はちょっと、と。「日本のレストランのクオリ

ティーの高さには目を見張るものがあります。スイスフォンデュはスイス産チーズのみで調理しますが、東京の店でもその通りにしていました。大使のご趣味は料理。ジャンルにとらわれない、オリジナルの料理を作るのがお好きとか。食べ歩きを通じて、たくさんのヒントを得ていらっしゃるにちがいない。

見習いたい環境保全の努力

海のないスイスでは、きれいな空気と水を保つために、国民一人一人が努力を惜しまない。首都ベルンの旧市街は世界遺産に指定され、街そのものの景観を美しく維持するために、厳しいエコライフをしっかりと実践している国である。スーパーではバラ売りが当たり前なので、日本のようにビニール袋に詰めた野菜はお目にかからない。買物は、子どもから大人までマイバッグを持参。日本のスーパー、コンビニで使用するビニール袋はないそうだ。有料で再生紙の紙袋が用意されている。「エコライフの基本は子ども頃から習慣づけられます」大使は、日本もゴミの分別にかなり力を入れていると、評価されている。お話を伺って、私たちは今後さらに、スイスが取り組む姿勢を見習わなければ、と痛感する。



最後に、これからスイスを訪れる日本人のために、ガイドブックにはなかなか載らない、とっておきの隠れスポットを教えてください、とリクエストしてみた。「ラウエネン湖(Lake of Lauenen)周辺が、お勧めですよ。」(行ってみたい、と3人が思わず、声を出した!)

日本とスイスが修好通商条約を締結して、来年が150周年という節目。様々なイベントを企画中である。最後に記念撮影に応じて下さった気さくな大使とのインタビューはとても短く感じられた。

※スイスの一般的な情報は、<http://www.swissworld.org/jp/>

(取材/山口幸子、永浜和美、高柳由紀子 文/永浜和美、高柳由紀子)



ドイツ語で牧草地を意味する、スイスの顔というべき、マッターホルン。標高4478m。(写真提供:スイス政府観光局) Valais Tourism By-Line: Valais/Christian Perret

Azabu Cool

麻布地区在住、在学、または在勤の外国人の方々にご登場いただき、日本の印象をお聞きます。今回は六本木で本格インド料理店「MOTI(モティ)」を経営しているサトナム・シング・サニーさん(インド・ニューデリー出身)に、お話を伺いました。



毎日お店に顔を出し、率先して接客を担当するサニーさん



お店はインドの宮殿をイメージしている。お店の前で。



3人の息子さんは、独立している。三男、アミット・シングさんの結婚式で兄弟全員が揃いました。

来日のきっかけをお話いただけますか？

ニューデリーでツアーコンダクターをしている父のお客様に、青山の大手スーパーの会長さんがおりました。毎年お見えになる方でした。父は私に海外で社会勉強をさせたいと思っていたので、その方の勧めもあり、1973年、24歳の時に来日しました。

どんなお仕事をされてたのですか？

来日して右も左も分らない東京で、会長さんのご好意で青山のスーパーで働きました。外国人は私1人の寮で、日本の友人ができ、言葉も覚えていきました。今でも当時の仲間との交流は続いています。先だって、三男の結婚式にも、彼らが駆けつけてくれましたよ。

レストランを始めるきっかけを伺います。

1978年に、私を支援して下さる方との出会いがあり、赤坂にレストランをオープンさせて、1982年に現在の麻布警察署近くの六本木に店を持ち、おかげさまで、今は4店舗経営しています。

当時は赤坂、六本木共に放送局が近くにあったので、外国人のお客さんが圧倒的に多かったんです。ベジタリアンのお客様に対応できるお店が少なかったこともあり、クチコミの効果は絶大でした。今



モティのランチセット

でもそうですが、モデルさんたちによく利用していただいています。やはり、場所柄ですかね。

そして、私の自慢でもあり財産は、何といたっても従業員です。インド人が多く、スタッフの大半が20年以上勤務してくれているので、私は本当に恵まれていると思います。

日本の好きな場所はどこですか？

やはり東京です。特に赤坂、六本木は外国人にとって、友達がつくりやすい素晴らしい街です。日本らしい風景と、国際都市の顔を持つ六本木で31年間お店をしていると、街や人の移り変わりが分って、私の第二のふるさともなりました。

日本の食事はいかがですか？

奥さんが日本人ですし、もう40年暮らしていますから、何も問題ないです。漬物は大好き。それとご飯、味噌汁、ふりかけがあればね(笑)。健康のために、バナナ、人参、りんご、生姜などで作る特製ジュースを毎日欠かさず飲んでます。

サニーさんは、流暢な日本語でいねいに応えて下さいました。穏やかな表情と、物腰の柔らかさが、お店経営の成功の秘訣では？と思いました。3人の息子さんもそれぞれアメリカの大学で学び、既に独立しています。毎日お店に立つサニーさんの笑顔は、美味しいカレーと共に、お客さんの心を癒してくれるにちがいありません。

(取材・文/高柳由紀子)

地域社会のゆくえ

10

もしものとき地域の絆が光る 地域防災協議会の活動

あなたも参加しませんか？

自分の住んでいる地域の防災対策、それを運営する防災協議会の活動をご存知ですか？麻布地区には小学校の学区ごとで6つの防災協議会が住民のボランティアで組織され区の補助金も活用し、運営しています。東町小地区防災協議会会長の大塚明さんにお話を伺いました。

防災協議会の活動

災害時の避難所運営のため、毎月運営会議を行い、避難所の運営マニュアルを作成したり、備蓄品の点検、マンホールトイレの管理、避難訓練の実施等を行っています。有事の際は避難所の運営もします。3.11東日本大震災のときは東町小学校に避難された約200の方々に毛布や水を提供するなどの活動を行いました。



東町小地区防災協議会会長 大塚明さん

まず「自分のことは自分」で積極的に地域の活動に参加して“絆”を

災害時東町小地区の住民や在勤の方全員分の備蓄品を用意することは不可能です。各家庭・企業で出来れば1週間分の食糧や水、毛布などは準備しましょう。「自分のことは自分で」これが一番大事です。それから顔見知りを増やしましょう。避難所で「初めまして」ではなく「あの人は来てるかな」「だいじょうぶかな」と思いう関係を普段から築いておくと、避難所での生活もスムーズです。

東町小地区では平成22年に、ボランティアを募集して小学校の校庭に手掘りで井戸を掘りました。マンホールトイレに水を流すためのもので、「上総掘り」という工法で3か月かけて掘りました。そのことによって地域の強い連帯感が生まれ、協議会のメンバーも60人になりました。

課題は住民とのコミュニケーション

東町小地区防災協議会によると、この地区の約8割がマンションに住む人で、一人暮らしの方も多数います。行事や防災情報について回覧板や掲示板でお知らせするようにはしていますがなかなか情報が届きません。



災害はいつおきるかわからない！夜間に炊き出し用パナーの使用訓練を実施



地域住民の手による井戸掘り

ぜひ地域の方のご協力をお願いしたいと思います。4月20日には東町小学校で「避難所を見てみよう」の会を開催します。初めての方でも気軽に参加してください。

- 《東町小地区 今後の活動予定》
- 4月 「避難所を見てみよう」の会
 - 6月 総会・懇親会
 - 9月 児童引渡し訓練にともなう防災訓練
 - 10月 港区総合防災訓練参加

※防災協議会の活動に参加したいなどのお問合せは港区麻布地区総合支所協働推進課協働推進係まで。電話 03-5114-8802



勅使門
善福寺の山門は、亀山天皇の勅願寺になったことにちなみ古くから「勅使門」と呼ばれている。

元麻布1丁目にある「麻布山善福寺」は、約1200年の歴史を誇る麻布界隈きっての古刹である。現在港区には全国の約1/2に相当する80ヶ国余の大使館が置かれているが、そのうちの60%に当たる大使館が麻布地区に集中している。更に昨年5月にオープンデーが開催されて盛況だった駐日欧州連合(EU)代表部の拠点「ヨーロッパハウス」も南麻布にある。麻布地区はその国際色を一層強めているが、「大使館の街・麻布」のルーツは、ここ善福寺に最初のアメリカ大使館が置かれたことにある。

宿泊館から公使館へ

幕末の安政6年(1859)、善福寺はアメリカ公使の宿泊館に指定され、タウンゼント・ハリス公使以下公使館員を迎え入れた。境内にはこれを記念したハリス記念碑がある。公使館は当初本堂北側の建物(奥書院、客殿の一部)に置かれた。これらの建物は文久3年(1863)に水戸の攘夷派浪士に襲撃されて焼失したが、幕府及びアメリカからの補助により再建された。



善福寺でハリスに英語を習った益田孝(初代三井物産社長)らが、昭和11年に建立。



最初のアメリカ公使団一行。2人の外国人のうち、左が公使のハリス、右が通訳兼書記のヒュースケン。中央の少年は通訳見習いの益田孝(後の三井物産初代社長)(江戸麻布善福寺の人たち 下田開国博物館蔵)



江戸時代(文政～天保(1818-1844)年間の頃)の麻布山善福寺(東都麻布山善福寺境内之図 溪斎英泉画 文政～天保年間(1818～1844) 港区立港郷土資料館刊)



現在の本堂は、江戸時代に建立された京都本願寺の八尾別院の本堂を戦後この場所に移築したもの。

大使館の街・麻布の軌跡

麻布の軌跡

「麻布山善福寺」

アメリカ公使館と関わりのある人物

タウンゼント・ハリス(1804-1878)

ニューヨーク州出身、アメリカの外交官。日米和親条約に基づき、安政3年(1856)初代駐日総領事として下田に着任し、下田条約を締結。さらに江戸に上って幕府に通商開始を迫り、安政5年(1858)日米修好通商条約の調印に成功、列強に先駆けて幕府の鎖国政策を崩した。後に公使に昇格し、安政6年(1859)アメリカ最初の公使館が置かれた善福寺に大統領フランクリン・ピアースから初代駐日領事に任命され、ヒュースケンと共に駐在した。駐在中、幕府の役人に「国際法」の講義をするなど、我が国の国際化/近代化にも貢献した。文久2年(1862)、体調不良を理由に帰国。本国では共和党のエイブラム・リンカーンが大統領となっていた。6年足らずの日本滞在中、ハリスにとって最も衝撃だったのは、ヒュースケンの暗殺事件で、ヒュースケンが亡くなったときは遺体に取りすがって慟哭したという。



江戸の庶民が見たハリス(左)とヒュースケン(右) (「霧ひすのうわさ」5巻 国立国会図書館蔵)

ヘンリー・ヒュースケン(1832-1861)

オランダ、アムステルダム出身。安政3年(1856)ハリスの通訳兼書記として来日。オランダ語は勿論のこと、英・仏・独語が堪能で日本語にも通じており、ハリスの片腕として日米間の折衝に活躍した。またアメリカ以外の国の幕府との折衝にも通訳を務めた。文久1年(1861)、赤羽接遇所(現在の飯倉公園内)でのプロイセン(ドイツの前身)と幕府との間の折衝に通訳を務めた後、宿舎の善福寺への帰路「中の橋」あたりで攘夷派浪士らの襲撃に遭い絶命した。この事件により、フランス・イギリス・オランダの代表は幕府の警備体制を非難して横浜に一次退去、大きな外交問題に発展した。ヒュースケンの葬儀は各国公使、総領事、使節なども参加して善福寺で行われたが、善福寺では土葬が禁じられていたため、遺体は南麻布の光琳寺に運び込まれ、早稲田大学図書館蔵



善福寺から南麻布光琳寺に向かうヒュースケンの葬列(シュピース「プロイセンの東アジア遠征」早稲田大学図書館蔵)

善福寺の起源

平安時代の天長元年(824年)、西の高野山金剛峯寺を模してこの地に麻布山善福寺を建立した。都内では金龍山浅草寺に次ぐ古い寺である。また鎌倉時代の蒙古軍襲撃(文永の役)に際して、時の亀山天皇の勅願寺となり、更に江戸時代には幕府より約1.8万坪の広大な寺領を与えられ、手厚い保護を受けた。

※勅願寺(ちよくがんじ)とは、天皇の発願によって鎮護国家、皇室安全を祈るために建立された寺院、あるいはそのために指定された既存の寺院のこと。

歴史の証人「善福寺のイチヨウ」

境内には、幹の回り約10m、樹齢750年を超える都内最古の古木「善福寺のイチヨウ」(国の天然記念物)がある。頂部はすでに失われており、戦災で黒く焼けた部分もあって、冬場には「巨大な枯れ木」としか見えない。しかし春になると一斉に新芽が芽吹き、晩秋には大量の落ち葉が辺り一面を黄金色に染める。未だに衰えぬその生命力には驚かされる。この鎌倉時代からの歴史の証人は、これからも麻布の変遷を静かに見守ってくれることであろう。



樹齢750年を超える「善福寺のイチヨウ」

参考文献/江戸の外国公使館 編集・発行: 港区立郷土図書館
善福寺パンフレット
麻布山ホームページ
稲垣利吉著「十番わがふるさと」

(文/ 清澤揚人寄稿)

地図
増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木より
文久2年(1862) 区立港郷土資料館刊

前号に引き続き今回は、麻布地区総合支所が独自に実施する12の地域事業のうち、「みんなと安全安心コミュニティプロジェクト」「麻布アートフェスタ」「麻布未来写真館」の3事業をご紹介します。

4.みんなと安全安心コミュニティプロジェクト

【事業化に至った課題認識】

麻布地区に暮らす全ての人びとが、日々、安全・安心を実感できるようにするためには、生活安全環境の改善をはじめ、防災対策やコミュニティの活性化など、地区特有の課題を踏まえた対策が必要です。

【事業の内容】

地域団体等の意見を踏まえ、地区の現状・課題について詳細な分析を行い、対応策を検討した上でモデル事業を実施します。生活安全環境や地域防災活動、地域活動への住民参加等を対象とします。

全体計画目標 (26年度末)	現 状 (23年度)	事 業 計 画			
		24年度	25年度	26年度	計
調査・分析 モデル事業実施	-	調査・構築	試 行	実 施	実 施

5.麻布アートフェスタ

【事業化に至った課題認識】

麻布地区は、国立新美術館、森美術館など文化・芸術施設が集まり、デザイナーなど多くのクリエイターが活躍する想像性豊かな地域です。

こうした麻布地区の特色を生かし、区民・在勤者・外国人など多様な人々が参加できる事業により新しい地域の魅力づくりとコミュニティの活性化に取り組んでいきます。



【事業の内容】

プロのアーティストを招き、参加者自らアートを体験し、楽しんでもらえるワークショップを開催します。年間1回の単発イベントではなく、複数回開催することで、参加者同士のふれあいと交流の場となるよう事業を展開していきます。



また、地域の人々が中心となって事業を運営できるよう、区民をはじめ地域の様々な人々の参加を得ながら事業を実施していきます。

全体計画目標 (26年度末)	現 状 (23年度)	事 業 計 画			
		24年度	25年度	26年度	計
19回実施	10回実施	3回 サポート チームによる 企画・運営	3回 チーム 麻布フェスタ 設置	3回 チーム 麻布フェスタ 主体で開催	9回

6.麻布未来写真館

【事業化に至った課題認識】

麻布地区は、歴史的物語や伝説のある寺町や武家屋敷など、話題性も豊富ですが、区民や訪れる人たちの中には、麻布の歴史や文化について知っている人が少ないのが現状です。

麻布地区の昔の写真などを通し、「まち」の歴史や文化をより多くの人に知ってもらい、麻布地区への愛着を深める一助とします。

【事業の内容】

区民、企業等と協働で、麻布地区の昔の写真などを資料として収集します。定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存していくとともに、区民協働スペース等に常設パネル展示を行います。

また、写真のデジタルデータ化等を進め、ホームページ等を活用し、区民をはじめ広く大勢の方が利用できる仕組みを構築します。これらの取組を通じて、麻布地区が有する景観や歴史的・文化的資源の魅力を発信していきます。

全体計画目標 (26年度末)	現 状 (23年度)	事 業 計 画			
		24年度	25年度	26年度	計
撮影・資料収集 常設パネル 設置 (1か所) パネル展開催 (28か所)	撮影・資料収集 パネル展開催 (13か所)	撮影・資料 収集 Web公開準備 常設パネル 検討 パネル展開催 (5か所)	撮影・資料 収集 Web公開 常設パネル 設置 パネル展開催 (5か所)	撮影・資料 収集 Web公開 常設パネル 設置 パネル展開催 (5か所) 冊子作成 (3,000部)	撮影・資料 収集 Web公開 常設パネル 設置 パネル展開催 (15か所) 冊子作成 (3,000部)



麻布区役所 1935年(昭和10年)
出典:港区議会史 通史編



現在の港区麻布地区総合支所

平成25年度 港区民交通傷害保険加入の申込は3月29日(金) 【金融機関での申込は3月22日(金)】までです。

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。

また、港区民交通傷害保険に、「自転車賠償責任プラン」(※自転車賠償責任プランのみでの加入はできません。)を併せたコースも募集します。自転車を運転中に相手にケガをさせた場合等が対象となります。

詳しくは各総合支所で配布するパンフレット又は区のホームページをご覧ください。

【加入対象者】

平成25年4月1日午前0時時点で港区に住所がある人

【保険期間】

平成25年4月1日午前0時から平成26年3月31日午後12時までの1年間

【加入方法】

●個人で加入される場合

各総合支所協働推進課協働推進係又は区内金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、ゆうちょ銀行・郵便局)で配布する加入申込書に記入の上、保険料を添えてお申し込みください。

●10人以上の団体で加入される場合

各総合支所協働推進課協働推進係で、団体加入申込書に記入のうえ、人数分の保険料を添えてお申し込みください。

【加入申込期限】

●各総合支所協働推進課協働推進係 3月29日(金)

●区内金融機関 3月22日(金)

※申込期間外の加入はできませんのでご注意ください。

幹事引受保険会社

(株)損害保険ジャパン東京公務開発部営業開発課
新宿区西新宿1-26-2 TEL 03-3349-6018

問合せ/麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話/03-5114-8802

(SJ12-09939、平成25年1月7日作成)

港区麻布十番暫定自転車等駐車場が平成25年5月にオープン予定です!!

港区麻布十番暫定自転車等駐車場が平成25年5月にオープン予定です。ぜひご利用ください。

なお、自転車等駐車場の開設に併せて、放置禁止区域を設定いたします。放置禁止区域内に放置されている自転車は即時撤去の対象となります。自転車は、手軽で安全な乗り物ですが、歩道に放置されていると歩行者の安全な通行の障害となり、怪我や事故に繋がる危険性があります。

また、災害時には避難・救助活動の妨げにもなります。麻布十番地域の放置自転車をなくし、安全・安心で快適な歩行環境を目指しています。ご理解、ご協力をお願いいたします。

名称	収容台数	利用方法	利用料金	利用時間
第1暫定自転車駐車場(歩道上)	自転車のみ 約270台	一時利用/定期利用	一時利用 最初の2時間無料、 6時間毎100円 定期利用 一般:1,800円/月、 学生:1,300円/月	24時間
第2暫定自転車等駐車場	2階 自転車 約80台 1階 原付バイク 約30台	自転車 一時利用/定期利用 原付バイク 一時利用	一時利用 最初の2時間無料、 8時間毎100円 定期利用 一般:1,800円/月、 学生:1,300円/月 原付バイク	24時間

※第2暫定自転車等駐車場の原付バイク用駐車場の開設は、平成26年4月1日からを予定しています。
※定期利用の申込受付は、4月以降の「広報みなと」等でお知らせします。



港区新広尾公園自転車等置場の閉鎖について

3月31日以降に自転車、バイクを置場に置いている場合は移動又は撤去します。

東京都で行っている古川の護岸工事のため新広尾公園自転車等置場を平成25年3月31日で閉鎖いたします。ご理解、ご協力をお願いします。



問合せ/護岸工事に関すること
東京都第一建設事務所工事課
電話/03-3452-1298

自転車駐車場、自転車置場に関すること
麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話/03-5114-8802

(仮称)麻布子ども中高生プラザ等複合施設の愛称等募集

南麻布四丁目に平成26年度開設予定の複合施設(子ども中高生プラザ・保育園・いきいきプラザ)の愛称を募集します。「親しみやすく、だれにでも呼びやすい」愛称を考えてください。また、同施設内のいきいきプラザの名称も募集します。愛称等は選考委員会の選考を経て決定し、著作権は区に帰属します。

対象 区内在住・在勤・在学者
申込み 郵送又はファックスで①複合施設の愛称②いきいきプラザの名称を、一人各1点に限り、理由・住所・氏名・電話番号(在勤・在学はその名称)を明記のうえ、3月22日(金曜・必着)までに〒106-8515 麻布地区総合支所管理課管理係へ。
電話/5114-8805 FAX/3583-3782



完成予想図

編集委員を募集しています。

ご住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・希望する理由(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課へ。
●電話/03-5114-8802 ●FAX/03-3583-3782

より魅力的な紙面にするために
“編集委員”として
ぜひご参加ください。

地域情報紙「ザ・AZABU」は
ホームページからも
ご覧になれます。



ザ・AZABU
●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館サービスセンター、南麻布・本村・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦
Sub Chief 石山恒子
Staff 浅川一枝 倉石哲良 西野さつき
出石供子 鈴木敏江 満木葉子
大村公美子 高柳由紀子 森 明
折戸桂子 田中亜紀 山口幸子
加藤智恵 永浜和美 山下良蔵
Junior Staff 石山 茜 大村 響 鈴木美砂
編集顧問 鈴木大智 吉松己薫

編集後記

木々は、芽吹き蕾はふくらみ花開こうとする季節です。別れもありますが、入学・就職・進級・転勤など新たな出発、前進、脱皮の時を迎えます。編集委員はボランティアで麻布地区総合支所協働推進課の方々と編集会議を開いて地域情報紙を発行しています。職業も年齢も異なった人々と、アイデアを出し合い、取材し、発行する時には、“協働”という素晴らしさを実感します。「ザ・AZABU」の編集にご参加ご協力ください。ご意見・ご要望もお待ちしております。(浅川一枝)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休/午前7:00~午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752
Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp